

子どもたちに より良い教育環境を

～小学校の配置の適正化について～



令和5年8月作成
大阪市教育委員会

子どもたちにより良い教育環境を

大阪市では、大阪市教育振興基本計画に基づき、全ての子どもが『心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立すること』、『グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となること』をめざしています。

このめざす理念に沿って、子どもたち一人ひとりの資質や能力を大きく伸ばしていくことが学校の責務であり、そのためには、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、時には友だちと互いに励まし合い、向上することができる一定の集団規模が必要であると考えています。

しかし、大阪市の児童数は減少傾向にあり、小学校の小規模化が進んでいます。

大阪市では、子どもたちにとって一定の集団規模を確保し、教育活動の充実を図っていくため、小学校の配置の適正化の取り組みを進めています。

このパンフレットが、小学校の配置の適正化についての理解を深めていただくきっかけとなれば幸いです。



小学校の配置の適正化とは

小学校の配置の適正化とは、学級数が11学級以下の小学校（小規模校）について、統合したり、通学区域を変更したりすることで、学校の規模が適正になるようにすることをいいます。

大阪市では、学級数が12学級から24学級の小学校を適正規模校としています。

※小学校の配置の適正化の詳細については、大阪市 HP
「[大阪市立小学校 学校配置の適正化の推進のための指針](#)」
をご確認ください。

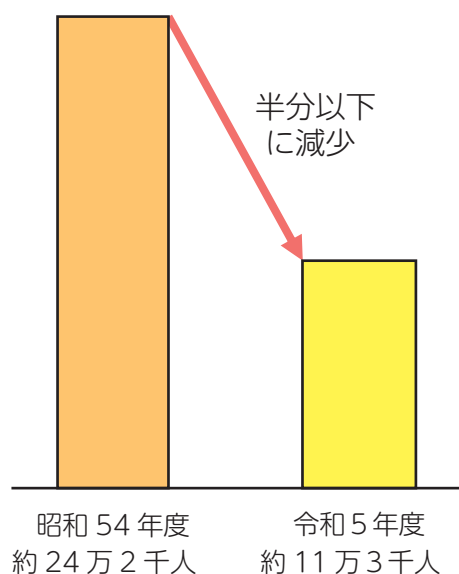


大阪市の現状

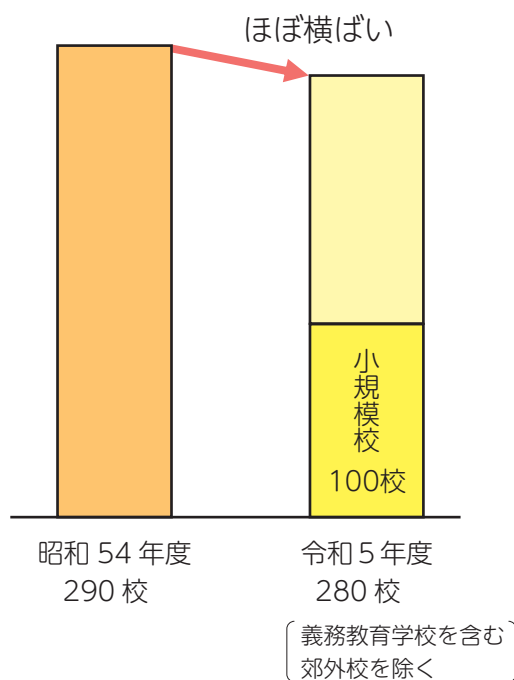
大阪市の小学校の児童数は、昭和 54 年度は約 24 万人でしたが、令和 5 年度は約 11 万人となり、半分以下に減少しています。一方、学校数は、ほぼ横ばいであり、小規模な学校が増えています。

大阪市立小学校の児童数・学校数

児童数



学校数



令和 5 年度は

- 小学校の約 4 割の 100 校に単学級の学年がある
 - 100 校のうち 3 割程度の学校が、全学年が単学級になっている
- ※単学級：1つの学年につき、1クラスの状態

地域等により差はあるものの、少子化の傾向は今後も大阪市を含め全国的に続く見通しであることから、学校の小規模化への対策は、差し迫った課題といえます。



小規模校の状況と適正規模校の状況

小規模校

(11学級以下の小学校のこと)

授業



〇〇さんに任せておけば大丈夫だな



適正規模校

(12～24学級の小学校のこと)



こんな考え方もあるんだな



運動会



違う学年と合同の競技だから、交流ができていいな



1組がんばれ / 2組がんばれ



クラス対抗で競技ができるし、応援もしてもらえて楽しいな



遠足



みんなでまとまって行動できて安心だな



みんなでわいわいして、行き帰りも楽しいな



小規模校の現状・課題と適正規模校で得られる効果

小規模校の現状

1学年に1クラスの場合、密接な関係性を作ることができる

課題

クラス替えができず、新しい人間関係を築く機会が少ない



適正規模校で得られる効果

適正規模校では、クラス替えなどをきっかけとして、新しい人間関係を築く力、コミュニケーション能力が高まりやすい

小規模校の現状

考え方を知っている者どうしなので、意見がまとまりやすい

課題

多様な意見に触れる機会が少ない



適正規模校で得られる効果

適正規模校では、他者の多様な意見に触れる機会や、考え方を広げる機会が増えやすい

小規模校の現状

児童が少ないため、児童一人一人に目が行き届きやすい

課題

クラス数に応じて教員数が決まるため、教員数が少ない



適正規模校で得られる効果

適正規模校では、教員数が増えるため、多面的な観点で子どもの様子を見守ることができる

小規模校の現状

児童一人一人が、活躍できる機会を設けやすい

課題

一定の児童数が必要となる教育活動の実施が難しくなる



適正規模校で得られる効果

適正規模校では、運動会の集団競技や音楽会などの集団活動が充実するため、社会性や協調性、連携・協力の大切さを学ぶ機会が増える

学校配置の適正化を行った小学校について

学校配置の適正化により、令和3年4月、令和4年4月に開校した学校を紹介します。

まつば小学校

令和3年4月に松之宮小学校と梅南津守小学校を統合し、まつば小学校を開校しました。



クラブ活動にたくさんの児童が参加しています



学年別の団体競技や個人走など、練習の成果を発揮できた運動会になりました

大池小学校

令和3年4月に御幸森小学校と中川小学校を統合、令和4年4月に舍利寺小学校の一部を統合し、大池小学校を開校しました。大池中学校と連携した「小中一貫校大池学園」となりました。



6年生の合唱など、1年間の成果を学習参観で発表しました



みんなで協力しあい、充実した校外学習になりました

田島南小学校

令和4年4月に田島小学校、生野南小学校を統合し、田島南小学校を開校しました。田島中学校とともに施設一体型の「田島南小中一貫校」となりました。



統合前の小学校から引き続き「生きる教育」など特色ある教育を行っています



休み時間になると、校庭からみんなの笑い声が聞こえてきます

義務教育学校 生野未来学園

令和4年4月に林寺小学校、生野小学校、舍利寺小学校の一部、西生野小学校、生野中学校を統合し、義務教育学校生野未来学園を開校しました。



体験授業などを活用し、キャリア教育がより一層充実しています



在校生(1～8年生)みんなで卒業生(9年生)を送る会を行いました

統合後の意見（統合後アンケートより）

統合を行った学校の児童・保護者に対するアンケートで頂いたご意見です。

統合前

複数の学校がひとつになることで学校の様子が変わることが心配

クラスの数や学年の人数が増えることが心配

新しい友だちができるか心配

授業の進み方などが変わるか心配

統合後

お互いの校則が少し違い、戸惑ったことがあったが、今までになかった学習など、いいことも増えた

クラス替えや同じ学年だけで運動会の競技ができるなど、今までできなかった経験ができるようになった

クラスのメンバーが変わり、新しい友だちに出会えた

クラスの人数が増えても授業の内容は変わらなかった

統合に関するアンケートより抜粋

上記のほか、令和3・4年度に統合後に実施したアンケートでは、約8割の児童が「新しい友だちができた」、約5割の児童が「これまでより楽しく学校生活を送っている」、「いろいろな先生に教えてもらえるのでよかった」と回答しています。

※参考

大阪市では、小中学校の教職員が協力した指導等による豊かな心の育成や、誰一人取り残さない学力の向上をめざし、すべての小中学校で小中一貫した教育を実現しています。特に小中一貫校、義務教育学校では、一部教科担任制を取り入れた指導を行うなど、9年間を見通した特色ある教育を実施しています。

小中一貫型小学校・中学校（学校施設連携型、学校施設隣接型、施設一体型含む）は、「組織上独立した小学校及び中学校が義務教育学校に準じる形で一貫した教育を行う」形態です。

義務教育学校は、「一人の校長の下で一つの教職員集団が一貫した教育過程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う」形態です。

よくある質問

Q 学校配置の適正化を進める時に、保護者や地域の意見は反映されるの？

A 保護者や地域の皆さんを委員とする「学校適正配置検討会議」を設置し、新しい学校の校名や校歌、通学路の安全対策など、ご意見をお聞きしながら進めていきます。



Q 統合後の学校への通学路の安全対策はどのようなもの？

A 区役所、学校、保護者や地域の皆さんと協力して通学路の現地確認等を行うほか、地元警察や関係機関と連携し、子どもたちの安全確保に努めます。



Q 統合した後の学校跡地はどのようなもの？

A 学校跡地の活用については、地域の皆さんのご意見やご要望を聞きながら、区役所や関係機関が連携し、まちづくりの観点から検討していきます。

お問合せ先

(区内の学校配置の適正化に関すること)

(このパンフレットに関すること)

大阪市教育委員会事務局総務部学事課 (学校適正配置グループ)

電話：06-6208-9111 FAX：06-6202-7052